

おとなの思考

す
て
る 14

- ▼ 知的メタボリック症候群
- ▼ 覚えるより難しい、忘れること
- ▼ うまくすてる精神を

敬
遠・和の思考 24

- ▼ 近すぎるから問題が起きる
- ▼ 日本は「和」を知る先進国

- ▼ 「尊敬しているから敬語を使う」ではない
- ▼ うるわしい「敬遠の心」

「悪」も悪くない 34

- ▼ 病気になる、より健康になる
- ▼ 受験に失敗して人間力がつく
- ▼ 悪条件が復元力を育てる

独
創 — ま
ね
ない 44

- ▼ 雑誌の「座談会」記事は菊池寛の発明
- ▼ 「学ぶ」は「まねる」に由来するが……
- ▼ 学校では「考える」ことを教えない

▼知るより考える―これがおとなの思考の基本

〳純〳と〳雑〳 55

▼人文系が自然科学の方法論をとった不幸

▼分析はいわば破壊である

▼専門的真理のほかに雑学真理というものがある

ことばとところ 65

▼ことばで病気になったり元気になったりする

▼かつての井戸端会議の効用

▼忘れることは頭をよくすること

▼人からほめてもらうことは心の薬

Part 2

▼ことばは不老長寿、美容の妙薬

知的生活再考

知的生活 82

▼生活から遊離した学術書や翻訳のことば

▼根本のところは、体で考える

▼汗を流して体で考える

▼知的一点豪華主義は通用しにくい

▼人生とは自分という雑誌を編集しつづけること

Part 3

▼最高の知的生活とは―人生を芸術にする

分析・統合・創造 95

▼人間すべてエディターなり

▼「わかる」は「わかる」「わかっ」こと

▼ジェーボンズの「マジカル・ナンバー」

▼オトギバナシは有力なモデル形成の役割を果している

▼モデルは理解作用の母型となる

▼「アダ名」「比喩」「類推」

忘れる 112

▼忘れることの意義

▼忘れるとは索引の失われること

▼ことばではなくものごとに直接ふれること

▼もっとも深い自我を形成するもの

▼忘却はかくれた表現行為、創造活動

▼忘我、無我夢中、が真に感ずること、真に知ること

ライフワークの思考

ライフワークの花 132

▼「切り花から根本へ」の発想の切り換えを

Part 4

島国考

島国考 164

- ▼日本の「交換思考」の欠如
- ▼島国―心理的に不安定な特性
- ▼英語はすこしも論理的ではない
- ▼島国言語と短詩型文学
- ▼島国形式とルネッサンス
- ▼いつも外国文化の顔色をうかがっている日本
- ▼大陸形式の文化や思想を理解する必要性

- ▼ライフワークの花を咲かせるために
- ▼アマチュアほど知的創造に適している
- ▼毎日の生活に小刻みな「出家的心境」を
- ▼盤上マコトことくわが地なり

ライフワークの思考 146

- ▼なぜライフワークが育ちにくいか
- ▼カクテルはあくまでカクテル
- ▼テーマが向マコトこうからやってくる
- ▼人生における往路と復路
- ▼“余生”などというものがあってはならない
- ▼ライフワークとは、ひとつの奇跡、個人的奇跡である

Part 1

お と な の 思 考

「三十年たっても……」—あとがきにかえて